

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権者への配慮から現時点での掲載を控えております。

著作権者への
配慮から現時
点での掲載を
控えておりま
す。

〔注〕リフォーム＝建物などを改築・改築すること。リフォームに比べ、建物を大規模に改築することを「リノベーション」という。

〔堀畑悦之『言葉の服』による〕

1 だだよく見ると部屋の隅に不思議な凹みがある。の一文を文節に区切ったとき、初めから数えて六番めになる一文節はどれか。次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 隅に イ 不思議な ウ 凹みが エ ある

2 「なごり」ということばの意味がどのように変化していったかについて、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。に入る内容を本文中のことばを使って四十五字以上、五十五字以内で書きなさい。

「なごり」ということばは、を意味するように変化していった。

3 また格別だ」とあるが、本文中で筆者は、なごりの食材のどのようなところをまた格別だと述べているか。次のうち、最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア まだ成熟していないけれど、初物で清々しい味わいを感じられるところ。
イ いよいよ脂が乗ってきて最高に美味しくなっているところ。
ウ たくさん収穫されて豊かに供されるところ。
エ 終わりのゆく季節を最後まで噛みしめて頂くことができるところ。

4 次のうち、本文中の③に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 「初花」に力強く咲き誇っている「盛り」の花を添える
イ 「盛り」の花に枯れゆくこととする「なごり」の花を添える
ウ 「なごり」の花にこれから咲くこととする「初花」を添える
エ 「なごり」の花に力強く咲き誇っている「盛り」の花を添える

二次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二 次の時賢卿の綾の小路壬生の家に、鞠の懸かりに柳二本ありけり。その内、戌亥のすみの木に鳥巢をくひ侍りけるを、いかが思ひけむ、その鳥その巢をはこびて、むかひの桃の木に作りてけり。人々あやしみあへりけるほどに、一両日をへて、関白殿より柳をめされたりけり。一両日その時他所にゐられたりけるほどなりければ、御使ひ向かひて御教書を付けたれば、すみやかにむかひて、いづれにてもはからひて掘りて参るべきよしひければ、御使ひかの亭に向かひて、その柳のうち二本を掘りて参るうち、鳥の巣くひたりし木をむねと掘りてけり。鳥はこの事をかねてさとりけるにこそ。

西尾光一、小林保治校注『新潮日本
古典集成 古今著聞集 下』新潮社刊

〔注〕二時賢卿＝源時賢のこと。

綾の小路壬生の家＝京都の綾の小路壬生小路という通りが交差する辺りにある家。
鞠＝蹴鞠。球を蹴って受け渡す遊び。

一両日＝一日、または二日。

御使ひ＝関白に仕えている従者。

御教書＝関白の意向を伝えるための文書。

亭＝時賢の家のこと。

1 人々あやしみあへりけるとあるが、人々はどうのことを不思議に思っていたのか。その内容についてまとめた次の文のに入る内容を本文中から読み取って、現代のことばで十五字以上、二十字以内で書きなさい。

鳥が、北西のすみにある柳の木に作っていたということ。

三次の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(5)～(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解含欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

(1) 如世術を身につける。 (2) 万策を尽くす。
(3) 争いの仲裁に入る。 (4) 朗らかに笑う。
(5) ユダンは林物だ。 (6) 異なった立場からロソソル。
(7) ハクラン会で様々な文化に触れる。 (8) 金メダルがシャチャイ園内に入った。

2 次のア～ウのうち、自分の書いた文章に他人の著作物を引用するときの注意点として適切でないものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 引用した部分は、かき「」でくくるなどして、自分の書いた部分と区別がつくようにする。
イ 自分の考えを他人に分かりやすく伝えるために、引用した部分の内容を変えようとする。
ウ 書籍から引用するときは、奥付を確かめるなどして、著者名などの出典の情報を明確に示すようにする。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

現在の日本語の教科書では「ハは主題を表す」と説明するのが一般的である。助詞ハが主題を表すとはどういうことだろうか。主語を示すガとはどこが違うのだろうか。二つの助詞の使い方を比べて考えよう。わたしたちは日本語の文を話したり、聞いたりするとき、直観的にハとガの違いを区別して、文の微妙な意味の違いをすばやくとらえる。たとえば、次のような文を言う必要があるとしたとする。

これは駅のコインロッカーのカギですよ。
これが駅のコインロッカーのカギですよ。

この二つの文は、次のどちらの状況に合うだろうか。

(1) カギがひとつ落ちていた。何のカギかわからない。みんなでわいい言っていたら、同僚であるあなたが通りかかって、同じものを見たことがあるのを思い出した。

(2) 彼の鞆の中にカギがいくつも入っていた。駅のコインロッカーのカギがあるはずなのだが、どれだろう。困った彼女が、同僚であるあなたにも見せた。幸い、あなたには見分けがついた。

あまり深く考えずに選んでください。

そうすると、おそらく(1)はハに、(2)はガになるだろう。登場人物の心理に想像をめぐらし始めると選択が変わってしまうかもしれないが、今はそんなに複雑な状況ではないとしよう。

二つの文は、どちらも「A(これ)＝B(駅のコインロッカーのカギ)」という関係を語っているのだが、わたしたちの反応は今見たように状況によって異なったものになる。つまり、日本語の文では等号関係以上の何かを区別するということである。文の意味を次のように見るとそれはもっとはっきりするだろう。

(1) ここにあるこのカギの正体が知りたいのなら、それは駅のコインロッカーのカギだ。

(2) ほかのものではなく、これこそあなたの知りがっている問題のカギなのだ。

(1) ではハまで言うてから、そこにあるカギについて素性を明かす。つまりハは、話し手がこれから「～について」述べるということを、聞き手に伝える

とガ文については、文の情報上の構成が異なるから省略のしかたもそれぞれ異なる。

これは駅のコインロッカーのカギです。→駅のコインロッカーのカギです。
これが駅のコインロッカーのカギです。→これです。

省略する部分が違っているのがおわかりだろう。ハ文の方は最初の代名詞をハもろとも落としてしまえばいいが、ガ文の方は③ために元の文の形をこわさなければならない。

また、ここでは「○は○です」という文についてだけ述べたが、ハもガももっといろいろな文を使うことができる。いつも未知と既知で楽に説明がつくかというところとは限らない。より緻密な分析が必要となる。ただ、こういう関係もあると心にとめておこう。

〔森本順子『日本語の謎を探る』による〕

筑摩書房

1 本文中のA・Dの――を付けた語のうち、一つだけ他と品詞の異なるものがある。その記号を○で囲みなさい。

2 ハは文の主題を表す助詞だと考える、とあるが、本文によると、主題を表すということにおいて、ハという助詞はどのような働きをするものだと考えられているか。その内容についてまとめた次の文の□に入る内容を、本文中のこのばを使って四十文字以上、五十文字以内で書きなさい。

ハという助詞は、話し手が□働きをするものだと考えられている。

3 いささか、とあるが、次のうち、このことは本文中での意味として最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア たまに イ やがて ウ おそろく エ わずかに

4 本文中の③に入れるのに最も適しているひとつづきのことを、本文中から八字で抜き出さない。

働きをする。この意味でハは文の主題を表す助詞だと考えるのである。

さらに、主題を表すということは次のようにも考えられることが多い。このように言うとき、「～」はお互いにわかっているものである。つまり、言葉の上の情報としてはもう知られてしまっている(＝既知)のである。「○です」で後から新しく伝達したい情報を提供する。

一般的な事柄について述べるときもハを用いた同じ形の文になる。

こうもりは哺乳類だ。(こうもりについて……)
京都の夏はむし暑い。(京都の夏について……)

この文では、「こうもり」「京都の夏」を題目として取り上げている。

ガの文はこれとはいささか異なっている。(2)からわかるように、知りたいのはいくつかある中でどれかということであり、「これが」と言ったときに、その答え「これ」を示す。

つまり、ガの前の名詞が新しい情報なのである。それでこの形の文は、未知―既知という組み合わせになる。情報が新規かもうわかっていることかという点では、ハの文とはちょうど反対の関係になる。この二つの文をまとめると次のようになるだろう。

既知(旧情報) 未知(新情報)
○○は ○○です

未知 既知
○○が ○○です

このようにハの文では、まずこれからこんなことについて話しますよという共通理解を求めて、そのあとそれについて新しいことを知らせる。

コミュニケーションのありかたとしては、わかっていることを先に示す方が自然な傾向である。ハの文はその傾向にそっているが、ガの方は、新しいことが先に来る。こういうふうに見ると、「○が○です」という文はむしろ特別な伝達方式に見える。外国語としての日本語では、学びにくいのはガ文の方のようである。

ふだんの会話ではよく文の一部を省略するが、そのときは、だいたい古いわかっている情報を脱落させて、新しい情報を残すというやりかたをとる。ハ文

5 次の文は、本文の内容をもとに、あとの【二つの文】について説明したものである。a、b、c、dに入れるのに最も適していることを、それぞれあとの【二つの文】の中から抜き出さない。

聞き手にとって【二つの文】における未知の情報は「a」と「b」であり、既知の情報は「c」と「d」であると考えられる。

【二つの文】

- あの人が山田さんだ。
○ 木村さんは図書委員である。

五

ある中学校では、生徒会役員が、ことわざを紹介しながら新入生に向けてメッセージを送ることにしています。次のA、Bは、紹介することわざとして出た案です。あなたが生徒会役員なら、どちらのことわざを選び、新入生に向けてどのようなことを話しますか。あとの条件1～3にしたがって、あなたが話す内容を別の原稿用紙に二百六十文字以内で書きなさい。

A 初心忘るべからず
〔意味〕物事を始めたときの新鮮な気持ちを忘れてはいけない。

B 好きこそものの上手なれ
〔意味〕何事でも、好きだとそれを熱心にやるから上達するものだ。

条件1 紹介することわざをA、Bから一つ選ぶこと。

条件2 あなたが話す内容を選んだことわざに関連させること。

条件3 実際に話すように書くこと。ただし、あいさつや自己紹介は書かないこと。

〈問題五を除く〉

—										
4	3	2							1	
ア	ア	55							「なごり」ということばは、	ア
イ	イ	を意味するように変化していった。								イ
ウ	ウ									ウ
エ	エ									エ

17	4	4	6	3	采点
----	---	---	---	---	----

二				
4		3	2	1
⑤	④	ア イ ウ エ	20 と い う こ と 。 15	北西のすみにある柳の木に作っていた
ア	ア			
イ	イ			
ウ	ウ			
エ	エ			

$\frac{1}{20}$	4	4	4	2		6	採点
----------------	---	---	---	---	--	---	----

三								
2	1							
	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
ア					朗	仲	万	処
イ	シャ	ハク	ロン	ユ				
			じる	ダン	ら	裁	策	世
ウ					か			

14	2	2	2	2	2	1	1	1	1	採点
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

四											
5				4	3	2				1	
d	c	b	a							話し手が	
					ア						A
					イ						B
					ウ		40				C
						50					
					エ	働きをする					D

21	4	4	4		6	3	探点
----	---	---	---	--	---	---	----

受験 番号	番
----------	---

- ・原稿用紙の正しい使い方にしたがって書くこと。
- ・題名や名前は書かないで、本文から書き始めること。

得点	18
----	----

采点	18
----	----

[illegible]